

着替えが正しい順序でできない…

⇒本人ができることは見守り、
戸惑う部分だけフォローしましょう

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

これまで、何の問題もなくできていた着替えのような日常動作ができなくなってしまうことを、**失行**といいます。これは、認知症の人の代表的な症状の一つである認知機能の障害です。適切な順番を考えながら着替えたり、季節に合った衣装を選んだりといったことが、次第にわからなくなります。

着替えに選んだ服を否定したり、急がせた相手に嫌悪感を抱くようになります。また、季節にそぐわない服装だとしても、自分で選んだ洋服でいいのだと言い張ったりします。

日常生活のさまざまな動作に時間がかかるのを、周囲の人が辛抱強く待つことは、なかなか難しいと思いますが、ぐっと我慢をして本人ができることは見守り、戸惑う部分だけをフォローするようにしましょう。

【 対応方法 】

- ①衣類のしまっているタンスなどに“下着”“ズボン”などの**文字とイラスト**をかいたラベルを貼って、探しやすくしておきましょう。
- ②着替えの順番がわかるよう、前夜、**着る順番通りに**（最初に着るものが一番上にくるように）服を畳んで、朝、本人の**目の留まる場所に**置いておきましょう。
- ③ボタンではなく面ファスナー（マジックテープなど）で止めたり、ウエストがベルトではなくゴムになっているタイプなど、**着脱しやすい衣類**を用意しましょう。
- ④着替えに時間がかかっても、急かせたり叱ったりせずに、着替えが終わったら「**気持ちよくなりましたね**」と声をかけましょう。
- ⑤本人の自尊心を傷つけないよう、着替えの手伝いはなるべく**同性**の人が行いましょう。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P70-71

認知症の人と家族の会, 認知症になった家族との暮らしかた, ナツメ社, 2018, P94-95

